

# 宇宙が日本を元気に

京都大学 山川 宏(京都新聞, 2012年11月11日)

日本に元気が無いと言われて20年経つが、**宇宙は、これから日本を元気にする選択肢の一つ**だと思う。自分が子供のときから、宇宙飛行士や科学・技術の場としての宇宙が紙面を飾っている。これからは、それらに加えて、生活や産業の面から宇宙が語られることが増えていくのではないだろうか。この**生活密着型の宇宙**が日本を元気にしていくと考えている。

天気予報でおなじみの**気象衛星**。カーナビや携帯で位置を知らせ、さまざまな位置情報サービスを展開する**測位衛星**。特に災害時にその力を発揮する通信衛星。普段は環境の変化を把握し、災害時に被災状況を知らせる**地球観測衛星**。放送コンテンツを提供する**放送衛星**。どれも、意識しなくても、日常に、そして社会に浸透している。

宇宙は、普段の生活を充実させ、さまざまな問題に貢献する**社会インフラ**となっている。**産業を元気にし、安全保障に貢献し、外交に役立つ観点**も忘れてはなるまい。このような地道な宇宙活動に、もっと目を向けていいのではないだろうか。

日本は、1970年に旧ソ連、米国、フランスに次いで人工衛星を打ち上げた国である。今も、**ロケットと人工衛星の双方を自前で用意して自律的に宇宙活動ができる、世界で両手の指の数程度しかない国の一つ**である。日本は、宇宙のインフラを自前で作る能力、そして、潜在的に世界に貢献していく国際競争力を持っている。それを支えてきたのは、米国より1桁以上少ない予算という厳しい状況の中で、情熱を持って取り組んできた人々だと思う。

ロケットや人工衛星の開発の歴史は、国と国の熾烈(しれつ)な競争の歴史であることは否めない。一方で世界の国々では、宇宙の科学力・技術力を、宇宙分野という狭い視点ではなく、**生活や産業など国全体を元気にするツール**として考えている。日本でも、科学力・技術力が、通信・放送・測位・地球観測等の宇宙における社会インフラに結びつき、真に生活と社会の基盤として利用されることを願ってやまない。そして、それらの**社会インフラが、国内外に展開されていくこと**で、日本が少しでも元気になればと思う。

かつて海を目指した坂本龍馬は、今ならば、きっと宇宙を目指したに違いない。龍馬は、「宇宙で日本を元気にすることが君たちの使命だ」と言ったのではないだろうか。

# 国家戦略としての宇宙基本計画(案)の注目点

京都大学 山川 宏

## 2つの基本方針:

「利用の拡大」、「自律性の確保」

## 3つの重点項目:

「安全保障・防災」、「産業振興」、「宇宙科学等のフロンティア」

## 4つの社会インフラ:

「測位衛星」、「リモセン衛星」、「通信・放送衛星」、「宇宙輸送」

## 宇宙産業基盤:

「官民連携」、「パッケージ型インフラ海外展開」、「研究開発」

## 情報収集・調査分析

「宇宙政策委員会、JAXAの機能強化」

## 宇宙外交の推進:

「多国間協力の着実な推進」、「二国間関係の強化」

## 宇宙を活用した安全保障政策:

「情報把握」、「情報共有」、「指揮・統制」

## 環境への配慮:

「国際的な対話」、「宇宙状況監視」、「デブリ除去技術開発」